

柴公也先生、林日出男先生、吉田良夫先生のご退職に寄せて

外国語学部長 赤 井 恵 子

三先生は、いずれも長らく外国語学部の教員をつとめられた方々です。そこにいらっしゃることがもう当たり前ではなくなる、ということが、3倍になってやってきた、そんな寂しさを感じています。

しかも、新型コロナウイルス感染の世界的拡大という状況下、ゆっくと別れを惜しむ宴も開けなかったのですから、送り出す側としては気持ちの整理があまりついていません。

このような短文を綴るという、お三方との来し方を振り返る時間を与えていただいたのは、心騒ぐ中、久々に落ち着いてものを考える機会をいただけた、ということになります。

柴先生とは長くある共同の仕事に従事していました。結構きつい仕事なのですが、その会議の休憩時間に先生が披露してくれる様々な話が面白く、一同よく笑いさざめいておりました。

林先生と私は、同期の着任でした。先生の穏やかな語り口の関西訛りを聞き、同じ訛りとはいっても早口で攻撃的な私自身の話し方を反省したことがあります。

吉田先生は、私が着任した時にはもう同じ科にいらっしゃいました。外国語学部長をつとめておられた時に、朝の早い時間帯を利用して論文を書く、とおっしゃっていて、多忙の中にきちんと研究者としての成果を出されていたことが印象的です。

三先生ともご退職後はお身体に気をつけられ、まだまだ多様にご活躍されることをお祈り申し上げます。